

第1号議案

平成20年度事業報告

概 要

支部では、平成19年度に神奈川県と横浜市の重度障害者医療費助成制度に一部負担金や所得制限と年齢制限の導入を阻止するため、会員の皆様とともに署名活動などを行なった結果、その要求は受け入れられ現在神奈川県の全市町村で、これまでどおり医療費の助成制度が受けられることになりました。

しかし、平成20年度の支部活動では、同じく神奈川県と横浜市の在宅重度障害者手当受給対象者を大幅に削減するという問題が持ち上がりました。

これに対しても支部では、再び全会員に在宅手当削減中止を求める署名活動と呼びかける取り組みを行いました。

今回も多くの会員の皆様のご協力で署名を集めることができ、早速神奈川県議会と横浜市議会に提出した結果、神奈川県議会では署名活動の効果が発揮され、拙速な見直しを阻止することができ継続審議となりました。

一方、横浜市議会では残念ながら力及ばず、在宅重度障害者手当は平成22年度から廃止することが決まりました。

いずれにせよ、神奈川県と横浜市には今後、障害者福祉の後退を招かないよう強く求めていく必要があります。

また、障害者自立支援法の改正に当たって全脊連本部は、「重い障害があっても普通に暮らせる社会」をテーマにした取り組みを行いました。利用者負担軽減措置の法定化や福祉サービスと補装具の利用者負担を合算した負担の軽減、障害者の範囲と程度区分の抜本見直し、相談支援体制の強化などの改正法案がまとめられ国会に提出されました。

そのほか支部活動では、会員の皆様のご協力により、豪華客船ふじ丸船上での健康セミナーや食事会の開催などの支部行事をはじめ、川崎、横浜、県央、西湘の各協会の活動もそれぞれのイベントが積極的に実施されるなど順調に推移しました。

また、今年度は支部役員の改選時期に当たりますが、湘南協会は長期療養中の協会長に代わる後継者の選任について、協会会員に対して意見を求めましたが協会長の選任にまでには至らなかった。このため当面、西湘協会が湘南協会の事務を兼任して担当する方向で今支部総会に提案することになりました。

神奈川県支部は、創立以来川崎、横浜、県央、湘南、西湘の五つのブロックに分け、それぞれ協会長を配置して会費の徴収などの事務連絡等を行う運営システムを採っており、全国各支部のモデルにもなってきました。今後も引き続き次の湘南協会長を選任していく努力が必要となります。

1、神奈川県・横浜市の在宅重度障害者手当対象者 削減に対する取り組み

神奈川県の在宅重度障害者手当は、1969年に、また、横浜市在宅障害者手当は1973年にそれぞれ創設され、これまで私たちの収入の一部として生活に組み込まれてきました。

しかし、平成19年には地方財政の逼迫などにより制度の見直しについて検討が始まり、ついに神奈川県と横浜市は、それぞれ平成21年2月の議会に在宅重度障害者手当支給条例の改正を提案し、成立させた上で平成22年度から同手当の廃止及び削減を計画し、横浜市は7月に、また、神奈川県は10月にそれぞれ発表しました。

その理由は以下のようになります。

先ず、神奈川県は「制度発足時と比べ障害者の地域生活を支える在宅サービスが充実してきた状況に鑑み、一律の個人給付を見直し、地域生活支援施策に転換し、重点化を図ることとする」という神奈川県障害者施策推進協議会の結論で方向性が示された。

また、横浜市障害者施策推進協議会でも、「在宅障害者手当という個人への一律の現金給付」から、障害者・家族が切実に求めている将来にわたる安心のための施策へ転換していく必要がある」との方向性が確認された。という理由で今回の手当廃止と対象者の削減案の議会提出につながったことになります。

支部では、これらの案が議会で可決すると、永年にわたり継続されてきた現金収入である手当がなくなってしまうことから、平成20年12月に「障害児者の生活と権利を守る神奈川県連絡協議会」と協働して会員の皆様と共に署名活動を実施して、障害者手当の廃止を阻止する活動に取り組みました。

神奈川県支部の署名活動の結果は、1月までに合計66名から署名簿が届けられました。協力していただいた会員の皆様には感謝いたします。

その内容は、神奈川県議会宛の署名は、合計724筆、横浜市議会宛の署名は、合計115筆でした。

署名簿は、他団体の署名簿とともに横浜市議会には2月18日に、また、神奈川県議会には2月19日にそれぞれ提出されました。

その結果、横浜市議会は私たちの活動を見無視、在宅障害者手当では平成22年4月から廃止が決定するという厳しい結果に終わりました。

一方、神奈川県議会では拙速な見直しをひとまず阻止することができ、継続審議という結果となりました。

しかし、だからといって安心することは難しい状況には代わりはなく、今後も障害者福祉の後退を招くことのないよう取り組んでいく必要があります。

2、「重度障害者医療費助成制度」が維持される

神奈川県は、重度障害者医療費助成制度、いわゆるマル障を見直し新たな自己負担を導入し、平成20年10月から実施すると発表したことに対して、平成19年度より県内の障害者団体とともに署名活動をはじめ、様々な反対運動を展開してきましたが、6月までにマル障制度は見直されることはなく、基本的に維持されることが決まりました。

支部では、引き続き以下の三つの有料化の反対運動と重度障害者医療費助成制度の維持を求める活動に取り組む必要があります。

『神奈川県がもくろんでいるマル障の三つの有料化』

①所得制限の導入

障害者本人所得が360万4千円を超える者は、制度の対象外とする。

②対象者の見直し

重度障害者になった年齢が65歳以上である者は、制度の対象外とする。

③一部負担金の導入

受診ごとに定額を徴収する。通院の場合、受診1回ごとに、200円。（ただし、調剤は除く）入院の場合、入院1日ごとに、100円。

3、平成20年度支部総会の開催

平成20年度支部総会は、6月29日に伊勢原市の「フォーラム246」において開催しました。

総会は、全腎連の運動により獲得され、永年にわたり私たちの生活を支えてきた重度障害者医療費助成制度を神奈川県が見直し、所得制限や一部負担金の導入など、障害者福祉制度の改悪についての問題に対する支部の取り組みが詳しく報告されました。

出席者からは、県庁の助成制度見直しを阻止するための活動についての意見が交わされましたが、改めて障害者が安心して暮らせる神奈川県を目指す活動が必要であることが確認されました。

このほか、支部と各協会が主催した活動や行事が報告され、平成19年度事業報告、決算報告、監査報告が全会一致で承認されました。

また、平成20年度事業計画では、神奈川県リハビリセンターにおける、脊髄損傷者のためのピアサポート事業の実施についての新たな提案が行われ、入院している脊髄損傷患者に対する相談支援活動に取り組むなどの計画とその関連予算が採択されました。

この支部総会には、会員総数が141名のうち出席者が13名。また、委任状を提出した会員は、58名、合計71名で過半数に達し、総会は成立しました。

4、健康セミナー「健康づくりのための体操」の開催 〔共同募金配分事業〕

平成20年度支部総会の開催日に併催しました、セミナー「健康づくりのための体操」は同じく総会会場のフォーラム246で行われ、講師に「健康づくり総合研究所」の高垣勝勲所長をお招きし、生活習慣病の予防などについての講義やそのための体操を実践しました。

講義では、血圧を安定するためには夕方に、また、糖尿病の方は食後に、中性脂肪が気になる人は食間に、コレステロールや肥満が気になる人はこまめに、それぞれ運動することが必要。

運動は、1日30分から60分継続し、病状や目的により1回20分以上の運動が必要で、週に3日から5日以上が望まれる。

運動種目は、持久力改善を目的とした散歩かアームサイクルやダンベル体操やゴムバンド体操などでした。

5、ふじ丸船上の健康セミナー〔共同募金配分事業〕と

支部忘年会の開催

支部忘年会は、毎年開催されていますが、昨年度の忘年会は特別に横浜港に停泊している、豪華客船ふじ丸の船上忘年会と健康セミナー「メタボリックシンドロームと食生活」を企画、開催し、32名が参加しました。

忘年会に先駆け、船上健康セミナーは、県立相模原緑風園の田村須美子栄養士を講師としてお招きして、生活習慣病の予防策として「メタボリックシンドロームと食生活」についての講義をしていただきました。

メタボリックとは、「代謝」という意味で食べ物からエネルギーになり、いらぬものは排出されたり身体の中を回ってゆくサイクルがうまく行かなくなると、肥満症や高血圧、糖尿病、高血糖などの病気になることでメタボリックという言葉になった。夜は、少なくとも夕食後2時間は寝ないことを守るだけでメタボは予防できる、などの講義が行われました。

また、横浜大桟橋に停泊中の豪華客船のふじ丸は、通路やエレベーター、トイレ、宿泊室、レストランなどバリアフリーが充実していて、車いすで利用しやすい構造になっていますが、そのような船上の支部忘年会が開催されました。

この忘年会には、神奈川県支部のほか埼玉県や千葉県、東京の各支部から参加してフルコースの食事を堪能しました。

6、定例役員会の開催

支部活動の円滑な運営と事業実施についての検討を行うために、平成20年

度の定例役員会は、第187回から第192回までの6回開催し、諸問題の解決に当たりました。

役員会	開催日	開催会場
第187回	平成20年4月13日	相模原市「けやき会館」
第188回	平成20年6月29日	伊勢原市「フォーラム 246」
第189回	平成20年8月30日	相模原市「けやき会館」
第190回	平成20年10月12日	相模原市「けやき会館」
第191回	平成20年12月23日	伊勢原市「フォーラム 246」
第192回	平成21年2月11日	相模原市「けやき会館」

7、支部会報「やわらぎ」の発行

地域の身近な情報を会報「やわらぎ」を通じて、会員にお届けする平成20年度事業は、第80号と第81号の2回発行しました。

第80号では主に、支部が開催した健康講座の内容の記事や署名活動などにより重度障害者の医療費助成制度がこれまでどおり維持されることなどを詳しくお伝えしました。

また、第81号では川崎協会が主催した、全脊連の創立50周年に当たっての活動を振り返る講演の内容記事や、また12月にふじ丸船上で開催したセミナー「メタボリックシンドロームと食生活」の講演内容を詳しく掲載し、参加できなかった会員の皆様にもお伝えしました。

やわらぎ第80号……………平成20年10月7日 発行

やわらぎ第81号……………平成21年 3月29日 発行

8、共同募金活動の参加

神奈川県支部の共同募金活動は、団体の社会活動として毎年県内の主要な場所で他の団体とともに続けられています。

昨年度も、10月1日に横浜駅西口で横浜協会の鈴木秀夫、妻屋事務局長他1名が募金活動に参加したのをはじめ、10月3日には、相模原市役所前で赤城副支部長が参加したほか、厚木駅前でも路川副支部長ほか6名が参加するなど積極的な社会貢献活動が行われました。

9、ピアマネジャー現任研修会の参加

全脊連では現在(社)日本損害保険協会助成による3年間の継続事業として、ピアマネジャーやピアサポート活動の経験を持っている各支部役員が病院やリハビリ施設などに入院している脊髄損傷患者や、また在宅の脊髄損傷

者とそのご家族等に対して、精神的な支援と社会生活に必要な情報提供などのピアサポートモデル事業を実施して、脊髄損傷患者等を支援するピアサポート活動の全国的な普及に取り組んでおりますが、ピアサポート活動の充実と資質の向上を目指すために、現任のピアマネジャーや支部役員等ピアサポート活動を行う人には、毎年1回の現任研修会を受講することが必要であるとされています。

平成21年1月17日に東京のタワーホール船堀において、全脊連の関東ブロック会の主催で開催された、脊髄損傷者のピアマネジャー現任研修会に支部から、山崎支部長はじめ3名が出席して、「千葉県支部のピアサポート活動の実践」などの講演やピアサポート活動の演習などを受講しました。

〔神奈川県支部のピアサポート活動について〕

平成20年度の支部事業計画では、神奈川県リハビリセンターにおけるピアサポートモデル事業として、グループ相談会やロールモデルの派遣、個別訪問のピアサポート活動、などを神奈川県支部のピアマネジャーや支部役員によって毎月一回定期的に実施して行く。としていましたが、支部ではこの1年間（4/21 5/29 8/26 12/4）の4回にわたり、神奈川県リハビリセンター側とピアサポート活動の実施について交渉を繰り返してきましたが、結果的に20年度中に実現することはできませんでした。

しかし、今後も引き続きリハセンターと話し合いを継続してピアサポート活動を実施して行く計画です。

10、第7回全国総会千葉県大会に出席

全脊連の第7回全国総会は、千葉県支部の主催で6月14日から3日間の日程で千葉市のホテルグリーンタワー千葉において、全国から30支部が参加して盛大に開催されました。

大会では、平成20年度定期総会に先立ち、「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちづくりを目指すには」をテーマにシンポジウムが開催されました。

全国に先駆け、障害者の差別禁止をする千葉県条例が施行されたことを取り上げ、堂本暁子千葉県知事、ジャーナリストの大熊由紀子、千葉リハビリセンターの吉永勝訓先生、毎日新聞社の野沢和宏編集部長、妻屋明全脊連理事長などがシンポジストとして出演するなど、障害者差別の禁止などについて激論が交わされました。この大会には、神奈川県支部から山崎支部長はじめ5名が出席しました。

11、関東ブロック会議栃木県大会に出席

全脊連の関東地方の各9支部で組織する、関東ブロック会の第31回栃木県大会は10月7日、日光市のホテルニュー岡部で開催され、80名が出席しました。

このブロック会議では、各県支部の活動報告や事業計画などが発表されたほか、主に障害者用駐車場に健常者が駐車する問題や、障害者用トイレのユニバーサル化で車いす使用者が利用しにくい問題、セルフ給油スタンドの問題などについて議論が交わされたほか、全脊連のピアサポート活動の実践などについての意見交換が行われました。

また、次回の平成21年度ブロック会議は茨城県支部の主催で開催することを採択しました。この大会には支部から、4名が出席しました。

12、各協会活動

(1)川崎協会

①研修会『「全脊連の活動を振り返って・・・そして、これからの活動」の開催

国連障害者の権利条約の批准や、障害者差別禁止法の制定などについての理解を深めるために、これまで日本の障害者がおかれてきた環境はどのようなものであったかについて、全脊連の50年間にわたる活動を振り返り、その歴史を学び、確認するとともに、これからの障害者活動を考える目的で、11月16日に川崎国際交流センターにおいて研修会を開催しました。参加者は26名でした。

研修会の講師には、全脊連の妻屋理事長を招き、発足当時の全脊連の活動を伝えるヴィンテージ写真や活動によって数多く獲得した福祉制度の成果とそのプロセスなどをパワーポイントで紹介する講演が行われたほか、研修会の後は参加者が一堂に会して和やかな夕食会が行われました。

（会報やわらぎ第81号掲載）

②川崎市に新しくできた3箇所のハローワークの点検作業を行った。

③川崎市が実施する福祉用具の川崎基準推進協議会が新たに発足し、委員に澤藤川崎協会長が就任した。

新しい福祉用具を川崎基準で評価するシステムが導入され、川崎協会ではこのほど当事者の立場で福祉用具の口ホクッションとストローホルダーの2点のモニターを受け持った。

(2)横浜協会

①『横浜港クルージングと萬珍樓で食事会』の開催

横浜といえば、バリアフリーが行き届いている中華街と山下公園でクルー

ジングが最も相応しく、おいしい。

横浜協会では、会員の皆様に毎年この行事にお誘いして、1年の疲れを癒すための楽しいひとときをお過ごし戴いております。

昨年度も10月10日に山下公園発着の遊覧船マリノージュに乗り、横浜港一周のサンセットクルーズを参加者18名と一緒に楽しみました。

また、夕食会は中華街の萬珍樓點心舗の4階に席を予約して、約2時間にわたり、楽しい語らいと本物の中華料理を堪能しました。この夕食会には28名が参加しました。

（会報やわらぎ第81号掲載）

（3）県央協会

①『イチゴ狩り&魚センターお買い物ツアー』の実施

車いすでもスムーズに参加できる、バリアフリーイチゴ狩りを企画し、2月15日にリフト付の観光バスで行く、いちご狩りと魚センターのお買い物ツアーを実施しました。バスは、まず東名高速で焼津の魚センターまで行き、昼食と買い物を済ませ、お目当ての久能山の金丸農園に到着したあと、参加者は早速ハウスの中に入り、甘く、香りの良いイチゴを口いっぱいほお張っていました。このツアーに参加したのは28名でした。

（会報やわらぎ第81号掲載）

（4）西湘協会

①『グラウンドゴルフ大会』の開催

10月31日、足柄山の麓にある南足柄市運動公園において西湘協会主催のグラウンドゴルフ大会を開催しました。

この大会では、神奈川県支部と千葉県支部から合わせて20名が参加してゲームを競い合いました。

その結果、優勝は松田利夫さん、2位には中内貞夫さんでホールインワン賞を獲得、3位は秋本順一さんとなり、千葉県支部が上位3位までを独占しました。

また、地元の神奈川県支部は、明比勅さんが4位、城ノ上さんは5位という成績でした。

（会報やわらぎ第81号掲載）

②ここ数年間にわたり湘南協会長が不在という状態が続いていたことから、支部では、湘南協会会員に対してその旨をお知らせし、その後継者の候補者を募集しましたが、引き受ける人がいないため、平成21年度支部総会に西湘協会長の宝子山正博さんが湘南協会の事務全般を受け持つ提案を行うことにしました。

13、その他の活動

- 1、赤城副支部長は、5月22日・6月19日・7月15日・8月27日・9月19日茅ヶ崎市社協・10月9日大和市社協・11月27日・12月11日・2月4日・3月18日に開催された、かながわ福祉サービス適正委員会に出席した。
- 2、路川副支部長は、5月21日・10月9日（大分国体結団式に出席）・10月21日・2月8日に開催された、神奈川県社会参加促進センター推進協議会委員会に出席しました。
- 3、妻屋事務局長は、6月26日に開催された、「これからの障害者と患者の福祉・医療を考える連絡会」総会に出席し、重度障害者医療費助成制度の問題などについて協議を行いました。
- 4、山崎支部長は、10月6日・1月26日に日本自動車連盟神奈川支部会議室で開催された、JAF神奈川支部交通安全委員会に出席した。
- 5、10月25日、神奈川リハビリテーションセンター駐車場で、ニッシン自動車工業とJAF隊員による障害者自動車無料点検サービスを実施し、全体で約60台が点検を受けたが、神奈川支部からも19台が点検サービスに参加した。
- 6、2月5日、神奈川県道路管理課の交通安全施設班からの依頼による、道路の段差についての車いす検証会と意見交換会が県立辻堂海浜公園内において行われ、山崎支部長が参加した。
- 7、12月20日、神奈川県社会福祉会館において、在宅重度障害者手当制度見直しと今後の地域生活支援の方向性についてと、県障害者福祉計画の改訂についての説明会が行われ、新田横浜協会長と鈴木秀夫さんが出席しました。

以上

第2号議案

平成20年度決算報告及び監査報告